

山崎製パン株式会社

情報分析システムにExcellent/WebQueryを採用
製造、販売の迅速な意思決定を支える

山崎製パン株式会社は、情報分析システムのレスポンス悪化をきっかけに、2004年6月、大規模なシステム改修に着手。基盤としてExcellent/WebQueryを採用しシステムを刷新した。全国の26工場、本社、関連会社における情報分析による意思決定の迅速化を実現し、高精度の需要予測や在庫予測を支えるシステムの構築を成功させた。

企業プロフィール

山崎製パン株式会社

設立: 1948年3月
 本社: 東京都千代田区岩本町3-10-1
 資本金: 110億1,414万3千円
 従業員数: 16,060人
 売上高: 8,856億円(連結)
 6,153億円(単体)
 事業概要: 食パン、菓子パン、和菓子、調理パン・米飯類等の製造および販売ならびにその他仕入れ商品の販売
 URL: <http://www.yamazakipan.co.jp/>
 (平成21年12月31日現在)



山崎製パン株式会社
システム開発課
松山 文雄 氏



山崎製パン株式会社
システム開発課
澤 和孝 氏

山崎製パン株式会社(以下、山崎製パン)では、パン、和菓子、洋菓子、その他の製品など多種にわたる製品を開発・販売している。現在、全国26か所の工場で月間4,000種類のパンを製造しており、一年間では10,000種類のパンを製造している。

最近のヒット商品という、「ランチパック」である。年間を通して25~30種類、多い時期には100種類が店頭で並んでいる。ピーナツやタマゴなどの定番品の他に、季節商品や地域限定の商品があり、地域の乳製品や農産物を原材料に使った製品、テレビ番組とのコラボ製品なども存在する。「超芳醇」、「ダブルソフト」、「ナイススティック」などもヒット商品だ。

現在、同社のパン市場でのシェアは1位。業界で突出した勢力を持ち、独自の流通システムを堅持しながら、好業績を続けている。

情報分析システムの再構築にあわせ
BIツール Excellent/WebQueryを採用

山崎製パンの情報分析システム「営業情報統合システム」は、10年以上前に複数工場用として独自に構築したのが始まりで、2001年、全工場のデータをUNIXサーバ上で運用を開始した。ところが、運用を始めてからというもの、データ量の増大、レスポンス悪化により、業務への影響が懸念されるようになった。そして2004年、これらの問題

を解決するため、同社はシステムの大改修に踏み切った。改修は、Windowsサーバへの移行、バッチ処理の修正、WebQuery/Excellentを基にしたシステム再構築、という3本柱で行われた。この時、営業情報統合システムは、WebQueryを基盤に、柔軟かつ迅速にシステム増強ができるよう拡張性が考慮された。

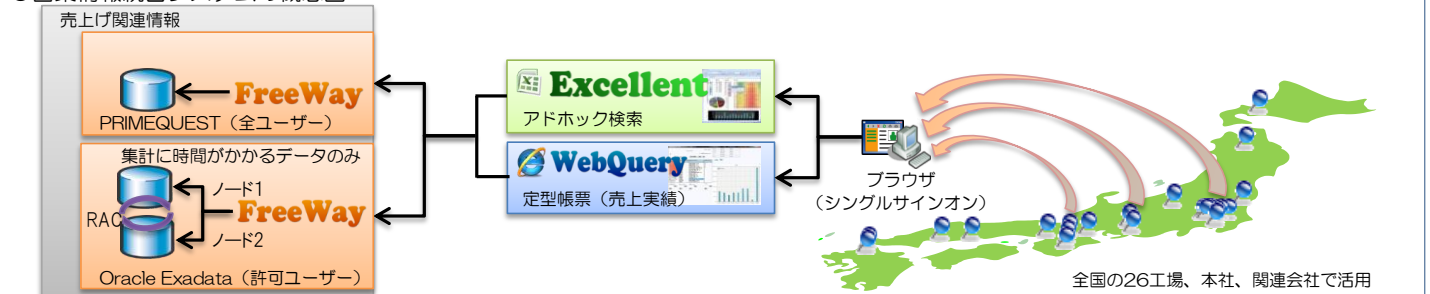
自由な検索、Excel出力を評価

営業情報統合システムの基盤にWebQuery/Excellentが選ばれた経緯について、システムコンサルタントの開発者は次のように話す。「この製品は、データベースにデータを入れるだけで、山崎製パンや関連会社から自由に検索ができる。検索結果がExcelに張り付けられるため、定型帳票は勿論、報告用の数値取得、資料作成が容易であり、そこが評価された。」「定型帳票を一度作成すれば、それを流用することで継続的に使えることも選定の要因だろう。」

山崎製パンでは、2001年以降、全国の工場からデータを収集し、計算センターのデータベースに日別売上げデータ、週別売上げデータを管理。本社、営業部、全国の工場・営業所から、「営業情報統合システム」を通じて、各業務の情報分析に活用していた。

2004年に始まったこの大改修の結果、工

●営業情報統合システムの概念図



導入背景

- 柔軟なカスタマイズ
- 容易な情報分析
- データ出力・加工作業の負担軽減

導入ポイント

- EXCELによるデータ活用
- 不慣れな人でも容易に使える操作性
- 膨大なデータも高速処理する性能

導入効果

- 意思決定の高速化
- データ抽出の作業負担軽減
- 自由かつ多角的な分析が可能

ンドユーザーにとって大きな効果があったと、システムコンサルタントの開発担当者は語る。「まず、複雑な検索に不慣れな人でも、容易に工場での製造・出荷数量の確認ができるようになった。これは、処理登録という定型帳票作成機能によって実現された。また、検索結果を容易にExcelに出力できるため、利用する明細データを基にした資料作成の負担が軽減された。商品別、配送ルート別、日別、工場別など様々な切り口で分析が可能のため、『商品の売上がどのように推移しているのか』などということが容易に把握できるようになった」。

システム面では、シングルサインオンに対応。これまでは、Excellent/WebQueryと営業情報統合システムに別々にログインする必要があり、利用者にとって認証手続きが手間だった。それが、シングルサインオンの対応により、営業情報統合システムでのログインだけで使用できるようになり、利用者の負担が軽減された。また、新たに簡易検索画面を追加。キーワードを入力し、項目を選択するだけで検索が可能になり、ほんのわずかな操作で分析できるシステムへと生まれ変わった。

利用者は2000名

そして2009年3月、処理速度のさらなる向上のため、最新のデータベースマシンのOracle Exadataと、基幹IAサーバのPRIME QUESTの2台を導入し、データベースを移行した。

同社では、取扱商品数の拡大にともない、明細データが大幅に増加する一方、営業や製造部門などのシステム利用者が2,000名に達していた。これにより、システムの利用が

盛んになる時間帯、朝の5時～9時は処理速度が低下し、満足のゆくレスポンスを得られなくなっていた。

それが、2009年の新サーバーへの移行で、2,000名のユーザーが膨大なデータにアクセスしても迅速な検索ができるシステムとなり、パフォーマンスは旧システムと比較すると10倍※1に向上、結果出力までの待ち時間が短縮された。全国の工場、営業所、本社、関連会社などの製造、営業担当者がアクセスし、売れ筋商品は何か。商品をいつどこで販売するのか。各現場における迅速な意思決定を実現している。

情報の蓄積期間を拡大し、予測精度の向上へ

同社では、今後も営業情報統合システムの検索対象データの拡大や、検索画面のリニューアルなどが検討されている。また近日、需要予測や在庫予測の精度を高めるため、工場から送られる情報の蓄積期間を年単位で拡大する予定である。

システムコンサルタントの開発担当者は今後の展望についてこう語る。「まず大切なことは、安心して情報を蓄積・管理できること。次に、蓄積された情報から、簡単に有益な情報を取り出せることである。運用性、操作性の向上、そのための機能を今後も充実させていきたい」。

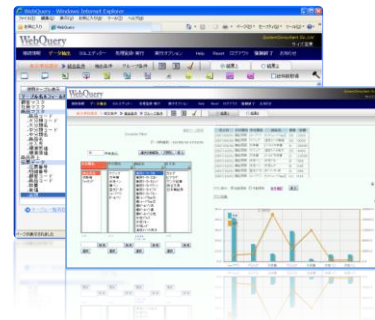
蓄積された情報は、企業にとって重要な財産。その情報を使いこなせるかで企業の競争力に差がつく。営業情報統合システムの大改修をきっかけに、積極的な情報活用から製造販売計画の最適化を追求する山崎製パンは、市場の激しい変化の中で存在感を際立たせている。

※1 新旧システムで事前検証した結果

導入製品

WebQuery

ブラウザなので、いつでも、どこでも、だれにでもリアルタイムに必要なデータを取り出すことができる。Excelを使ったデータ分析や様々な形式の帳票作成が可能



Excellent

Excelアドインなので、使い慣れたExcel上で簡単にデータ分析や帳票作成が可能。分かりやすい操作画面で、欲しいデータを欲しい時に取り出すことができる



●山崎製パン 情報分析システムの沿革



Information

●製品紹介サイト

Excellent/WebQuery/FreeWayの特長、導入事例、稼働環境、及び価格などをご紹介
<http://www.ksc.co.jp/spnet/>

●新バージョンによるBIソリューション

新バージョンに搭載されたBI機能をご紹介
<http://www.ksc.co.jp/spnet/v2010/>

●体験デモサイト

各製品の体験デモはこちら
<http://www.ksc.co.jp/spnet/experience/>

システム概要

●パッケージ
 WebQuery
 Excellent
 FreeWay

●DBサーバ
 Oracle Exadata
 (Oracle RAC 11g)
 Windows Server 2003
 (Oracle 10g)

●Webサーバ
 Windows Server 2003
 (IIS)